

豊かな人間性を育てる新聞活用授業

樟南高等学校 教諭 光司智徳

1・はじめに

本校は鹿児島県で最も歴史のある私立高校であり、現在は普通科3コース、商業科、工業科3コースを有する総合高校となっている。

NIE実践校は2年目となり、昨年度の報告でも触れているが、「新聞活用授業」導入までの経緯を簡単に説明する。

本校は平成26年度より「普通科未来創造コース」という新しいコースを立ち上げた。普通教科の学習を中心として、更に様々な独自の行事、取り組みを行い、生徒の「未来を創造する力」の向上を図っている。

コースの目玉として「新聞活用授業」がある。毎週1時間を新聞を活用した独自の授業を行うもので、授業担当者は元日本経済新聞の記者(筆者＝専門教科は国語)であり、新聞記者を経験した者が、高校において新聞を専門的に扱って授業を行っている。

総合的な学習の時間(1単位)において、1年生は「新聞と生活」、2年生は「新聞と社会」、3年生は「新聞と未来」と題して新聞やその他媒体を活用したオールジャンルの柔軟性ある授業を行っている。

この授業は現在、4年目を迎えており、今年度の未来創造コース在校生(1年生127名、2年生140名、3年生126名＝計393名)が授業を受ける対象となっている。

毎週の授業だけに留まらず、毎朝、コースの生徒全員に新聞の切り抜きコピーを配布するなど、各学級の担任教諭の協力を得て、学校生活の中で常に新聞記事に触れることができる環境作りをしている。

2・ねらい

新聞離れが言われる昨今であるが、信頼性の高い新聞の記事に触れるということは、世の中の正確な動きを知ることにつながる。記事に触れる中で、物事を知り、視野を広げ、自分の考えを持てるようになり、さらに自らの意見を明確に述べたり、記述できるようになってほしいと考えている。

新聞活用授業において、特に以下の点を「ねらい」として定めている。

〔ねらい〕

- 1・新聞、新聞記事に触れることで世の中を知る
- 2・それぞれの事象について考察する
- 3・世の中や各事象の仕組みを知る
- 4・視野を広げることで、人間的な幅を広げ、社会で通用する人間となる
- 5・進路実現に向けての力をつける

上記の「ねらい」については新聞活用授業の導入時より変わっていないものである。高校の授業で行うため、新聞記事から各教科につながる部分、進路実現につながる部分など、波及効果が大きくなるように工夫している。新聞はオールジャンルなので、内容の自由度も大きく、生徒に与えたい情報や知識を常に意識しながら、各授業を組み立てている。その時々、また学年ごとにも扱う記事を変えて、少しでも「ねらい」を達成できるように考えて取り組んでいる。

授業においては基本的には担当者が1人の状況が続いており、学校、教員集団という単位で見れば、NIE実践校としてはあまり相応しくないのではないかと考えている。

3・取り組み状況

基本的には昨年度の取り組みを大きな変更点はないので、継続的な取り組みの報告となる。先述したように全校的な取り組みではなく、1担当教諭による1コース内限定の授業となっている点では、新聞活用の広がりには本校では見られず、残念な面でもある。

ただし、新聞活用授業そのものへの理解はあり、私立高校として中学生に学校のアピールをする際などは、この取り組みを大いに宣伝している。

①毎日の取り組み

毎朝(テスト当日以外の平日はすべて)、当日の新聞各紙の一面コラムおよび当日の大きな記事や生徒に知ってもらいたい記事をコピーして印刷し、両面刷りで配布している。

配布対象の生徒は11学級、約400人いるので、毎朝、その人数分を印刷して、学級ごとのファイルに入れて、朝の職員会議までに各担任に配布する形を取っている。

以前は担任に1枚だけ配布し、担任が生徒人数分を印刷するというやり方を取っていたが、配るタイミングがまちまちであったり、時には配り忘れがあったりと、担当者としては不本意な流れがあったために、現在は全て担当で印刷して、必ず朝の会において、その日の朝刊の記事を配布できるようにしている。

生徒はこの毎朝の記事を目にした上で、毎週1度の新聞活用授業を迎えることになっており、特に普段は新聞記事に触れることがない生徒においては、日常的に新聞記事に触れる機会となっている。

配布物には南日本新聞社に掲載される「若い目」も必ず1人は載せており、同年代の生徒がどのような考えを持っているのかについて読んでもらっている。通常の記事もさることながら、身近な生徒たちの意見から刺激を受ける生徒は多いようで、記事と合わせて生徒が楽しみにしているのが「若い目」である。本校生徒も投稿して採用されることもある。

②授業での取り組み

今年度の授業において取り組んだ記事の一例として以下のようなものがあった。

○大阪府立高校の生徒が地毛であった頭髪の黒染めを指導されたという記事

○福岡市の男子高校生が男性講師に暴行する動画がインターネット上に流出したという記事

○神奈川県座間市の殺人事件。またそれに絡むSNS問題の記事

○「森友学園問題」などの国会に関する記事。衆議院選挙の記事

○鹿児島市震度5強の地震に関する記事

ほんの一例であるが、このような記事をもとにして、「なぜ起きたのかを考える」「記事に関する感想を書く」「記事を受けての自分の考えの主張」などに取り組む。また、他人事ではなく、身近な問題として捉えられるように意識させている。様々な事象に触れて、考える力を養うことで人間性は磨かれていくはずである。

その他、授業では南日本新聞1面コラム「南風録」の書き写しや新聞記者による講演会、新聞社見学などを取り入れている。

継続的かつ安定的な新聞活用授業の運用の中で、「ねらい」をしっかりと達成できるように今後も取り組んでいきたい。

(さいごに)

学校を上げてのNIE実践というより、個人的な取り組みとしてなされているのが本校の実践の現状であり、今後もそういう部分においては変わっていくことはない。新聞活用授業は非常に有効な取り組みであり、今後も継続していくが、学校としてNIE実践校として認定を受けるには相応しくないため、本年度を最後とする。